

(別紙様式3)

令和4年度あいちラーニング推進事業研究報告書【重点校】

学校番号 16
学校名 愛知県立 中村 高等学校
校長氏名 小川 芳範

研究責任者職・氏名	教頭・河野健治	
研究テーマ	ICT機器を活用した主体的・対話的で深い学びを推進するための取組の研究	
本年度の研究目標	(1) ICT機器の活用による「主体的・対話的で深い学び」の実現をとおして、授業改善を図り、スクール・ポリシーに示した「教育内容」を実現するとともに、実践の取組を広げる。 (2) 新型コロナウイルス感染症の影響による自宅待機の生徒に対して、ICT機器を活用し、オンライン配信と使用教材を工夫することで、対面授業が実施できない状況でも学習を進めることを可能とする。	
研究の実施内容		
実施月日	内 容	備 考
令和4年 4月5日	○第1回あいちラーニング推進委員会 ・各教科の委員が以下の取組を行うことを確認した。 ①夏季休業中に長期休業課題のロイロノートに配信・提出を行い、成果や課題を洗い出す。 ②10月20日(木)にロイロノートを用いた公開授業を開催し、授業後に研究協議会を開催する。 ・一人一台タブレットの導入に向けた検討を行うことを確認した。 ・本校のICT機器活用状況、ネット回線の整備状況等を確認した。	
6月28日	○第2回あいちラーニング推進委員会 ・各教科の委員から、長期休業課題におけるロイロノート活用、公開授業におけるロイロノートの活用についての予定を聞き、情報共有を行った。 ・一人一台タブレットの生徒への配付に向けての準備作業の内容やスケジュールについて検討した。 ・「タブレット端末利用規定(案)」について検討を行った。	
8月2日	○昭和高校で開催された第1回連絡協議会に参加し、情報共有を行うとともに、今後の研究に関する助言を受けた。	

9月5日	○第3回あいちラーニング推進委員会 ・一人一台タブレットの配付手順について確認した。 ・他の学校行事との兼ね合いにより、公開授業、研究協議会の期日を10月21日から11月10日に変更した。
11月10日	○公開授業、研究協議会 ・各教科の委員がロイロノートを活用した公開授業を行った。その後、研究協議会を行った。 ・主幹校にも公開授業を参観していただき、研究協議会で指導・助言をいただいた。
12月23日	○昭和高校で開催された第2回連絡協議会に参加し、研究報告書の作成及び次年度以降の取組に関する助言を受けた。
令和5年 1月上旬	○第4回あいちラーニング推進委員会 ・研究報告書の素案を提示し、内容の検討を行った。
2月24日	○学校関係者評価委員会 ・学校関係者評価委員に対して本年度の研究内容を説明し、評価を受けた。
3月下旬	○研究報告書をホームページで公開する。

研究成果の評価及び普及・還元に関する実績

1 研究成果の評価（研究計画書より）

(1) 評価方法

学校関係者評価委員に対して、あいちラーニング推進事業について報告し、評価を受ける。

(2) 評価基準（到達目標）

ア あいちラーニング推進委員がロイロノートを用いた主体的・対話的で深い学びを推進する授業を公開授業として行い、その成果と課題を校内で共有することができたか。

イ 家庭と学校間でロイロノートを用いて課題の送信・提出ができたか。

2 研究成果の普及・還元

(1) 公開授業・研究協議会

ア 公開授業

5名の教員が、ロイロノートを用いた主体的・対話的で深い学びを推進する授業を11月10日に校内で公開した。

清水 和彦（国語）、杉山 文仁（地歴公民）、小出 孝明（数学）、南島 雅彦（理科）、池田 達哉（英語）

イ 研究協議会

公開授業日の授業後に研究協議会を開始し、職員間で成果と課題を共有するとともに、主幹校から指導・助言を受けた。

【成果】

- ・小テストなどを手軽に作成することができる。
- ・生徒の意見をリアルタイムで集約し、その結果を画面で共有することができる。
- ・資料の紛失がない。
- ・前の資料に戻ることができるので、復習させやすい。
- ・授業だけでなく、クラスでの連絡にも有効である。

【課題】

- ・ログインに時間がかかる。紙の資料のように「ちょっと出して少しだけ見る」のにも時間がかかる。
- ・ネットのつながらない教室や電波の弱い教室では通信が途切れることがあり、授業に支障が出ることもある。

(2) 長期休業課題の配信・提出

【成果と課題】

- ・配信や提出に写真を使用できるのが、ロイロノートの長所である。一方、手書きの文字が多い課題や枚数の多い課題の提出には不向きである。

(3) 学校関係者評価委員会

2月24日に行われた学校関係者評価委員会にて、授業視察をしていただくとともに、あいちラーニング推進事業における本年度の取組を報告した。委員からは「全生徒がタブレット端末を使っている授業を見て感銘を受けた」、「同じ使い方ばかりでは生徒が飽きる。いろいろな使い方を工夫するべきである」、「ネットワーク環境やハードウェアの整備が急務である」などの評価を受けた。

(4) 研究成果の公開

研究成果として、本研究報告書を本校のホームページで公開する。